第37回 金融庁契約監視委員会の概要

〇開催日時:令和6年12月3日(火)10時00~11時01分

〇開催場所:中央合同庁舎第7号館西館 9階 905B会議室

〇出席者:石島委員長、長岡委員、真野委員

〇議題:

(1) 事務局説明

金融庁における令和6年度上半期の契約状況について

- (2)契約担当者説明及び質疑応答
 - ① クラウドサービスを活用したタレントマネジメントシステムの提供及び関連サポート 等業務 一式
 - ② 金融庁行政情報化 LAN システム等のガバメントソリューションサービスへの移行業務 一式
 - ③ 市場監視システムに係る設計・開発等業務 一式
 - ④ 市場監視システムに係る令和6年度設計・開発等の品質管理支援等業務 一式
 - ⑤ コンプライアンス WAN による情報提供 一式

〇主な審議内容

5 H 1221 5 H	
質問・意見	説明
①クラウドサービスを活用したタレント	
マネジメントシステムの提供及び関連サ	
ポート等業務 一式	
・契約金額の妥当性をどう分析している	・落札事業者によれば、競合他社に対する
のか	優位性を確保するために入札価格を設定
	したとのこと。
	・低入札価格調査を実施し、仕様書に則っ
	た開発を行うこと、そのための体制とし
	て専担者が配置され必要に応じて増員す
	る計画があること、他の省庁や自治体で
	の受注実績が豊富であること等を確認
	し、履行がなされないおそれはないと考
	えたため、契約金額は妥当であると認識
	している。
・予定価格の算定方法について	・市場価格の調査として複数者から参考見
	積りを取得し、適正な予定価格を算定し
	ている。

- 審査において評価された内容について
- ・評価基準については、「契約内容の理解度、作業計画の妥当性・効率性」、「システム操作の柔軟性」、「年間を通じた関連サポート」、「情報セキュリティ」、「省庁等でのタレントマネジメントシステムの受注実績」などの項目を重要な評価項目として設定した。
- ・受注者は、「省庁、自治体等でのタレントマネジメントシステムの受注実績」や「システム操作の柔軟性」などの項目で評価された。
- ②金融庁行政情報化 LAN システム等のガバメントソリューションサービスへの移行業務 一式
 - ・一者応札となった理由をどう分析して いるのか
 - ・複数者応札のための取り組みを行って いるのか

・契約金額の妥当性をどう分析している のか

・予定価格の算定方法について

- ・事前に複数の事業者から参考見積りを取得していたが、入札においては、当該期間における社内体制の構築ができないといった理由により、契約相手方を除いて入札への参加がなく、一者応札となったものと認識している。
- ・調達仕様書案について、20 日間意見招請 をかけることにより、事業者から仕様書 案への意見を広く求めた。
- ・意見招請後速やかに、他省庁のガバメントソリューションサービスへの移行支援の入札に参加した実績のある事業者や、金融庁内の他の情報システムに関する業務を受託している事業者など、入札に参加可能と思われる複数の事業者に対して、声掛けを行った。
- ・複数の事業者から参考見積りを取得した うえ、デジタル統括アドバイザーから助 言を受けて工数や単価を精査し、妥当性 を検証した。
- ・事前に入手した他社分も含めた参考見積 金額よりも安価な金額による落札となっ ており、契約金額は妥当であると認識し ている。
- ・市場価格の調査として複数者から参考見 積りを取得し、適正な予定価格を算定し ている。

・審査において評価された内容について

- ③市場監視システムに係る設計・開発等業 務 一式
 - ・契約金額の妥当性をどう分析している のか

- ・複数者が参加できるように取り組んだ 内容はどのようなものがあるか
- ・審査において評価された内容について

- ④市場監視システムに係る令和6年度設計・開発等の品質管理支援等業務 一式
 - ・契約金額の妥当性をどう分析している のか

- ・評価基準については、「調達仕様書に基づいた設計・構築・テストや職員への教育を効率的かつ効果的に実施するための提案」、「事業者独自の創意工夫やサービスの質の向上に資する業務効率化等に関する提案」が具体的になされていることを重要視した。
- ・複数者から参考見積りを取得し、工数や 要員単価を精査したほか、システム専門 家からも意見聴取した上で競争入札に付 した。
- ・事前に入手した各社の参考見積金額より も低廉な金額による落札となっている が、提案された作業計画に欠落している ような部分は見られず、受注者の企業努 力によるものと考えられることから、業 務履行に支障はなく、契約金額は妥当で あると認識している。
- ・入札公告前に行った意見招請結果を踏ま え調達仕様書の修正を行った。
- ・公告開始後には、複数者に対して本件へ の参加を呼び掛け、入札に関する説明会 を開催した。
- ・評価基準については、「業務の理解」、「詳細な作業計画」、「トータルコストの最適化」、「言語移植に関する方針」などの項目を設定した。
- ・受注者は、「トータルコストの最適化」や 「言語移植に関する方針」などの項目で 評価された。
- ・複数者から参考見積りを取得し、工数や 要員単価を精査したほか、システム専門 家からも意見聴取した上で競争入札に付 した。
- ・事前に入手した各社の参考見積金額より も低廉な金額により落札されたため、低

・審査において評価された内容について

- ⑤コンプライアンス WAN による情報提供 一式
 - ・特命随意契約となった理由について

・契約金額の妥当性をどう分析している のか 入札価格調査を実施したところ、受注者 による企業努力や経営判断によるもので あった。

- ・本件プロジェクトに類似する検証業務の 実績を有しており、業務履行に支障はな く、契約金額は妥当であると認識してい る。
- ・評価基準については、「提案内容の妥当性」、「独創性」、「技術力」、「作業計画の妥当性」などの項目を設定した。
- ・受注者は、設計・開発等事業者が作成した成果物をレビューする際の「技術力」や「作業計画の妥当性」などの項目で評価された。
- ・全国の証券会社、自主規制機関、当局との間をネットワークで結び、売買データの授受を電子的かつ一元的に行えるのは、コンプライアンス WAN のみであり、他の手段によって行うことは不可能である。
- ・コンプライアンス WAN は、事業主体である日本取引所自主規制法人が提供しているサービスであり、他に当該サービスを 提供している者は存在しないため、競争 の余地がない。
- ・他に当該サービスを提供している者は存在しないため、他者と比較して、契約金額の妥当性を分析することは困難である。
- ・契約金額については、例年特に変動はない。
- ・契約金額については、利用者で構成されているコンプライアンス WAN 運営協議会 (毎年開催)の中で、利用者の負担額の妥当性について議論しており、システム継続のための必要経費を利用者で分担するという形で協議、積算されている。

以上